

令和元年5月23日

山口県教育委員会会議議案

山口県教育委員会

報告事項1

令和2年度(2020年度)山口県公立学校教員採用候補者選考試験 の実施について

1 選考区分、志願区分(校種等)、教科(科目等)及び採用見込者数

(1) 選考区分及び志願区分(校種等)

ア 一般選考

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校小学部・中学部・高等部、養護教諭の区分で実施する。

イ 障害者を対象とした選考

一般選考において実施する全ての志願区分(校種等)において実施する。

ウ 教職大学院修了見込者特別選考

一般選考において実施する全ての志願区分(校種等)において実施する。

エ 社会人特別選考

一般選考の小学校、中学校及び高等学校の試験を実施する教科(科目等)において実施する。

オ スポーツ・芸術特別選考

中学校の保健体育、音楽及び美術並びに高等学校の保健体育、芸術(音楽、美術、書道)において実施する。

カ 山口県教師力向上プログラム修了者特別選考

小学校において実施する。

キ 博士号取得者特別選考

高等学校の理科(物理、化学、生物、地学)において実施する。

ク 看護科・理療科教諭特別選考

高等学校の看護、特別支援学校高等部の理療において実施する。

※ 一つの選考区分、志願区分(校種等)に限り志願できる。

中学校及び高等学校並びに特別支援学校の中学部及び高等部にあつては、一つの教科(科目等)に限り志願できる。

ただし、以下の1～10に示す組合せについては併願が可能(いずれか一つの組合せに限る。)

なお、4～10については、第一志願と第二志願を逆にした組合せによる併願も可能。

	選考区分	第一志願	第二志願
1	一般選考	中学校	小学校
2	一般選考	特別支援学校小学部	小学校
3	一般選考	特別支援学校中学部	小学校
4	一般選考	中学校音楽	特別支援学校中学部音楽
5	一般選考	中学校美術	特別支援学校中学部美術
6	一般選考	高等学校芸術(音楽)	特別支援学校高等部芸術(音楽)
7	一般選考	高等学校芸術(美術)	特別支援学校高等部芸術(美術)
8	スポーツ・芸術特別選考	中学校保健体育	高等学校保健体育
9	スポーツ・芸術特別選考	中学校音楽	高等学校芸術(音楽)
10	スポーツ・芸術特別選考	中学校美術	高等学校芸術(美術)

(2) 教科(科目等)及び採用見込者数

全体432人程度 [昨年度421人程度]

採用見込者数の算定に当たっては、退職者数、児童生徒数の推移等を考慮した。

ア 一般選考

小学校	210人程度	[昨年度211人程度]
	96人程度	[昨年度91人程度]
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語 18人程度 ○ 社会 18人程度 ○ 数学 12人程度 ○ 理科 7人程度 ○ 音楽 4人程度 ○ 美術 3人程度 ○ 保健体育 18人程度 ○ 技術 2人程度 ○ 家庭 1人程度 ○ 外国語(英語) 13人程度 	
高等学校	67人程度	[昨年度61人程度]
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語 6人程度 ○ 地理歴史 <ul style="list-style-type: none"> 世界史 2人程度 日本史 3人程度 地理 2人程度 ○ 公民 <ul style="list-style-type: none"> 政治・経済 1人程度 ○ 数学 7人程度 ○ 理科 <ul style="list-style-type: none"> 物理 3人程度 化学 5人程度 生物 4人程度 地学 1人程度 ○ 保健体育 2人程度 ○ 芸術 <ul style="list-style-type: none"> 音楽 1人程度 美術 1人程度 書道 1人程度 ○ 外国語(英語) 8人程度 ○ 家庭 2人程度 ○ 情報 1人程度 ○ 農業 <ul style="list-style-type: none"> 農業畜産系 1人程度 農芸化学・食品系 1人程度 土木造園林業系 1人程度 ○ 工業 <ul style="list-style-type: none"> 機械系 3人程度 電気系 2人程度 化学工業系 1人程度 ○ 商業 3人程度 ○ 水産 <ul style="list-style-type: none"> 航海系 1人程度 機関係 1人程度 食品・栽培系 2人程度 ○ 福祉 1人程度 	

特別支援 学校	小学部	9人程度	[昨年度 7人程度]
	中学部	各教科1人程度を原則とし、 合計7人程度	[昨年度 7人程度]
	高等部	各教科1人程度を原則とし、 合計5人程度	[昨年度 6人程度]
養護教諭		26人程度	[昨年度 25人程度]

※採用者数は、退職者数の状況等により変更することがある。

- イ 障害者を対象とした選考
全ての志願区分（校種等）全体で10人程度 [昨年度 10人程度]
- ウ 教職大学院修了見込者特別選考
前頁「ア 一般選考」の採用見込者数に含む。
- エ 社会人特別選考
小学校、中学校、高等学校とも前頁「ア 一般選考」の採用見込者数に含む。
- オ スポーツ・芸術特別選考
中学校、高等学校とも前頁「ア 一般選考」の採用見込者数に含む。
- カ 山口県教師力向上プログラム修了者特別選考
前頁「ア 一般選考」の採用見込者数に含む。
- キ 博士号取得者特別選考
前頁「ア 一般選考」の採用見込者数に含む。
- ク 看護科・理療科教諭特別選考
高等学校の看護で1人程度 [昨年度 1人程度]
特別支援学校高等部の理療で1人程度 [昨年度 募集なし]

2 志願書類受付期間

- (1) 郵送又は持参による場合 5月13日（月）から5月31日（金）まで
※郵送の場合は、5月31日の消印のものまで有効
- (2) インターネットによる場合 5月13日（月）から5月24日（金）午後5時まで

3 選考試験期日

- (1) 第一次試験
7月13日（土）及び14日（日）
- (2) 第二次試験
8月24日（土）及び25日（日）
なお、小学校については、上記に加えて25日（日）から27日（火）のうち指定した1日で個人面接を実施（8月31日（土）、9月1日（日）を、悪天候等で小学校個人面接が実施できなかった場合の予備日とする。）

4 選考試験会場

- (1) 第一次試験
ア 山口会場・・・・・・・・・・山口高校、山口中央高校、西京高校
イ 東京会場（神奈川県横浜市）・・・國學院大學たまプラーザキャンパス
- (2) 第二次試験
山口高校、山口中央高校、西京高校、山口農業高校

5 選考試験内容

(1) 第一次試験

- ア 一般選考、障害者を対象とした選考、教職大学院修了見込者特別選考、社会人特別選考、山口県教師力向上プログラム修了者特別選考及び博士号取得者特別選考
- ・教職専門（教職大学院修了見込者特別選考、社会人特別選考、山口県教師力向上プログラム修了者特別選考及び博士号取得者特別選考の志願者以外の者）
 - ・教科専門
 - ・特別支援教育専門（特別支援学校志願者及び特別支援学校を第二志願とする者）
 - ・実技（小学校及び特別支援学校小学部の志願者を除く）
 - ・集団面接（討議）（教職大学院修了見込者特別選考及び山口県教師力向上プログラム修了者特別選考の志願者以外の者）
- イ スポーツ・芸術特別選考及び看護科・理療科教諭特別選考
個人面接、集団面接（討議）

(2) 第二次試験

適性検査、小論文、集団面接（模擬授業及び討議）、個人面接、実技（小学校、特別支援学校小学部の志願者及び小学校を第二志願とする者）

※ 障害等のある志願者から受験上の配慮や採用後の配慮の希望があった場合は、障害の状態等に応じて必要な配慮について、志願者と話し合いの上、決定する。ただし、内容によっては配慮できない場合もある。

受験上の配慮例：実技試験の免除、問題・解答用紙の文字の拡大、試験時間の延長 等
採用後の配慮例：可能な範囲での設備改修

6 選考試験結果の発表

(1) 第一次試験結果の発表予定

8月6日(火) 午前9時

(2) 第二次試験結果の発表予定（採用候補者名簿登載予定者の発表）

10月2日(水) 午前9時

7 令和2年度山口県公立学校教員採用候補者選考試験の主な変更点

＜社会人特別選考の対象者に青少年教育施設勤務経験者を追加＞

社会人特別選考については、民間企業等経験者又は青年海外協力隊等派遣経験者を対象としているが、次の者も対象とする。

- 過去5年間（平成26年4月1日から平成31年3月31日まで）に、国公立の青少年教育施設（青少年自然の家等）において、通算2年以上勤務した経験を有する者（非常勤を除く。）

8 志願書類の請求等について

(1) 配布場所

山口県庁（受付、中央県民相談室及び山口県教育庁教職員課）、山口県内各総合庁舎（地方県民相談室等）、山口県東京事務所、山口県大阪事務所、山口県内各市町教育委員会

(2) 郵便で請求する場合

請求先：〒753-8501 山口市滝町1番1号 山口県教育庁教職員課（☎ 083-933-4550）

封筒の表に「教員志願書類請求」と朱書きし、住所、氏名（〇〇様とする。）及び郵便番号を明記し140円分の切手を貼った返信用封筒（角形2号：縦33cm、横24cmのもの）を必ず同封すること。

なお、同時に2部請求する場合は65円分の切手を、割増郵送料として追加すること。

(3) インターネットを利用した申請の場合

アクセス先：<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50200/index/>

9 その他

志願者確保のため、教員採用候補者選考試験説明会を県内外合わせて14会場を実施する。各会場で志願書類を配付する。

(1) 説明会の概要

- ア 山口県教育委員会あいさつ
- イ 令和2年度山口県公立学校教員採用候補者選考試験について
 - ・令和2年度の主な変更点
 - ・具体的な採用見込者数、選考試験の日程、受験申込方法等
- ウ 山口県の教育について
- エ 現職教員による体験談
- オ 質疑応答

(2) 日時及び会場名等

日時	会場名	場所	参加者数()は昨年
5月10日(金) 18:00~20:00	山口大学会場	山口大学 吉田キャンパス 共通教育棟2番教室 山口市吉田1677-1	162人(136人)
5月11日(土) 10:00~12:00	周南会場	県周南総合庁舎 周南会議室702、703 周南市毛利町2-38	58人(47人)
5月11日(土) 10:00~12:00	下関会場	下関市教育センター 大研修室 下関市幡生新町1-1	103人(90人)
5月11日(土) 14:00~15:30	福岡会場	福岡県立ももち文化センター 第1研修室 福岡県福岡市早良区百道二丁目3番15号	18人(20人)
5月12日(日) 10:30~12:00	岩国会場	岩国市教育センター 第1研修室、第2研修室 岩国市横山三丁目1番11号	37人(51人)
5月12日(日) 10:30~12:00	萩会場	萩市第3会議室(萩市教育委員会隣り) 萩市江向510	21人(22人)
5月12日(日) 14:00~15:30	岡山会場	岡山県生涯学習センター 視聴覚室 岡山県岡山市北区伊島町3丁目1-1	34人(31人)
5月14日(火) 17:35~19:35	山口県立大学会場	山口県立大学 北キャンパス 2号館 B202教室 山口市桜島6丁目2-1	40人(52人)
5月15日(水) 18:00~19:30	山口学芸大学会場	山口学芸大学 A-400教室 山口市小郡みらい町1-7-1	105人(105人)
5月16日(木) 14:30~16:00	広島大学会場	広島大学 教育学部 L-109講義室 広島県東広島市鏡山一丁目1番1号	14人(16人)
5月17日(金) 14:30~16:00	福岡教育大学会場	福岡教育大学 共通講義棟 308教室 福岡県宗像市赤間文教町1-1	26人(30人)
5月18日(土) 14:00~15:30	広島会場	広島市まちづくり市民交流プラザ 研修室A 広島市中区袋町6番36号	32人(25人)
5月19日(日) 14:00~15:30	大阪会場	大阪市立東淀川区民会館 会議室2 大阪府大阪市東淀川区東淡路1-4-53	21人(54人)
5月19日(日) 14:00~15:30	東京会場	東京都港区生涯学習センター(ばるーん) 305学習室 東京都港区新橋3丁目16-3	17人(35人)

参加者数計688人(714人)

I 調査の概要

1 調査の目的

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査実施日

平成31年4月18日（木）

4 調査内容

(1) 教科に関する調査（小学校…国語、算数 中学校…国語、数学、英語）

○出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

○今回の調査では、①「知識」に関する問題と②「活用」に関する問題が一体的に問われた。

○新たに中学校英語（「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」）の調査が行われた。（3年に1回の調査）

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

○児童生徒に対する調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

○学校に対する調査

- ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 参加学校数等

○参加学校数 計 428校

- ・小学校 277校
- ・中学校 144校、中等教育学校 1校
- ・特別支援学校 6校

○参加児童生徒数 計 約22,000人

- ・小学校 約11,000人
- ・中学校 約11,000人

II 調査問題の概要

1 教科に関する調査

小学校国語 14問 (昨年度 国語A 12問 国語B 8問)

○ 公衆電話について調べたことを目的に合わせて資料を用いて報告する文章を書く問題や、身近な食べ物について疑問に思ったことを調べ紹介し合うために資料を読み取る問題、町の広報誌に取り上げられていた昼職人を紹介するためにインタビューをする問題など、実際の学習場面や学校生活での活用を想定した問題が出題された。

【特徴的な問題例】

公衆電話について調べたことを目的に合わせて資料を用いて報告する文章を書く問題

1

高橋さんの学級では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することになりました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いてある「報告する文章」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【報告する文章】

1 公衆電話について

はじめに

先日外出したときに、家に電話をかけようとして近くの店に行くと、あつたはずの公衆電話がなくなっていて、こままってしまいました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間にかなくなっていました。わたしは、公衆電話の数が減っているのではないかと思い、町の公衆電話の数を調べてみることにしました。それをもとにしたものが(資料1)です。平成二十年頃から二十九年までの十年間で、約半分にまで減っていることが分かりました。そこで、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうのかどうか調べてみることにしました。

高橋 めぐみ

2 調査の内容と結果

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか

多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみました。

そこで、地いきの八十三人を調査の「ア」しようとして、公衆電話が必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの方が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが(資料2)です。「けいたい電話をわすれたときに必要」「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。

このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

(2) 公衆電話にはどのような使い方がありなのか

公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、警察署(110番)や消防署(119番)には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができると、硬貨やテレホンカードのときでも、硬貨を使って通話することができると、電話の混み合っているときでも、優先的に通話することができると、このように、公衆電話は、みんなのときに使うことができるということが分かりました。

(3) 公衆電話はどのような場所にあるのか

公衆電話を必要とするときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを調べて知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまわったものが(資料3)です。

この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。

調査の結果をもとに考えたこと

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなつてしまつたわけではないと考えました。なぜなら、

3

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つかりやすいのではないかと考えてみました。今回の調査を通して知ったことを、学級の友達に「かざらず多くの友達に伝え、公衆電話についてウかんしんをもつてもらいたい」と思います。

〈資料1〉
公衆電話設置台数の移り変わり

年	台数
1908	300
1910	280
1915	250
1920	220
1925	200
1930	180
1935	160
1938	150

〈資料2〉
公衆電話が必要とされる理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつかりにくいときに必要	3人
その他	5人

〈資料3〉
公衆電話の設置場所を示した地図

-8-

(問題の続き)

一 高橋さんは、「報告する文章」で〈資料2〉と〈資料3〉を、それぞれどのような目的で用いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 現在と過去の様子を並べて示し、二つのちがいを伝えるため。
- 2 内容ごとに分類して示し、大まかな持ちようを伝えるため。
- 3 年度ごとの数値をグラフで示し、移り変わりを伝えるため。
- 4 記号や印などを使って示し、実際の位置を伝えるため。
- 5 説明したい場所やものを写真で示し、実際の様子を伝えるため。

〈資料2〉



〈資料3〉



※解答は、解答用紙に書きましょう。

三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の□に「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書いています。□に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 「報告する文章」にふさわしい表現で書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、四十字以上、七十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の枠内には書き用紙があるので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※の印から書きましょう。どみょうで行を数えなくて、続けて書きましょう。

90字	調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって 必要がなくなってしまうわけではないと考えました。 なぜなら、	
40字		

[正答例]

- 一 〈資料2〉2, 〈資料3〉4 (完答)
- 三 (「なぜなら、」) 公しゅう電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされていたり、きん急のときにも使うことができたりするからです。(68字)

- 2つの合同な台形で作られた図形の面積を求めるとき、示された式がどのようなことを表しているかを説明する問題や、日常生活の問題解決のために2つの数量を見だし、数学的に表現・処理して判断する力をみる問題などが出題された。

【特徴的な問題例】

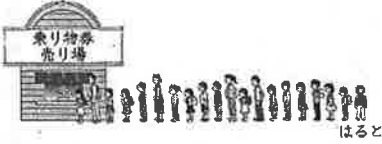
日常生活の問題解決のために2つの数量を見だし、数学的に表現・処理して判断する力をみる問題

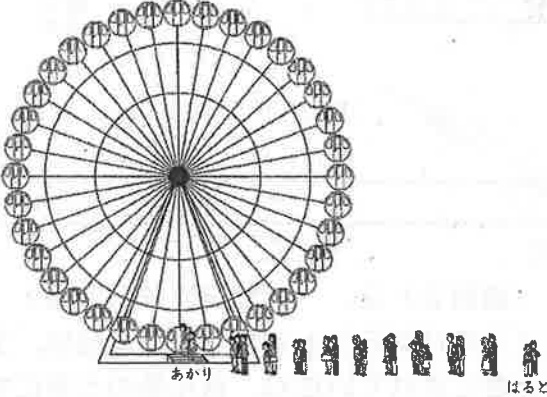
4

(2) 次に、はるとさんたちは、観覧車に乗るために列に並んでいます。
観覧車のゴンドラは36台で、ゴンドラ1台に1組ずつ乗ります。
ゴンドラは1台乗るのに20秒かかります。
今の先頭はあかりさんたちです。はるとさんは、あかりさんたちの10組後ろにいます。

はるとさんたちは、遊園地に来ています。

(1) 乗り物券を買うために列に並びました。
はるとさんは、だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知りたいと思いました。
はるとさんは、前から数えて20番目でした。
列に並んでいる人は、同じ進みぐあいです。





だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るためには、何を調べればよいですか。
下のアからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 5人で何mの列になっているか。
- イ 5mで何人並んでいるか。
- ウ 5分後は何時何分になっているか。
- エ 5分間で何人買ったか。

[正答例] (1) エ (2) 20×10

(問題の続き)

(3) はるとさんたちは、限定商品を買いたいと思っています。次の予定があるので、午後3時までにはレジに着きたいと考えています。
列に並ぶと、レジまでは14ポール分ありました。ポールとポールの間の長さはどこも同じです。



はるとさんたちが並んでから、4ポール分進むのに8分間かかり、残り10ポール分になりました。午後3時までには、残り33分間です。そこで、33分間以内にレジに着くことができるかどうかを考えてみました。



4ポール分進むのに8分間かかったことから、残り10ポール分も同じ進みぐあいでも進むとして考えます。
 $8 \div 4 = 2$ で、1ポール分には2分間かかります。
残り10ポール分なので、 $2 \times 10 = 20$ で、20分間かかります。
だから、33分間以内にレジに着くことができます。

ところが、レジにいる店員さんが減ってしまいました。それからは、3ポール分進むのに9分間かかり、残り7ポール分になりました。午後3時までには、残り24分間です。

そこで、はるとさんたちは、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを、もう一度考えてみました。



3ポール分進むのに9分間かかったことから、残り7ポール分も同じ進みぐあいでも進むとして考えます。

3ポール分進むのに9分間かかる進みぐあいでも進むとすると、残り7ポール分進むのにかかる時間は何分間ですか。

求め方を言葉や式を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。
さらに、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

- 1 着くことができる。
- 2 着くことができない。

[正答例] (3)

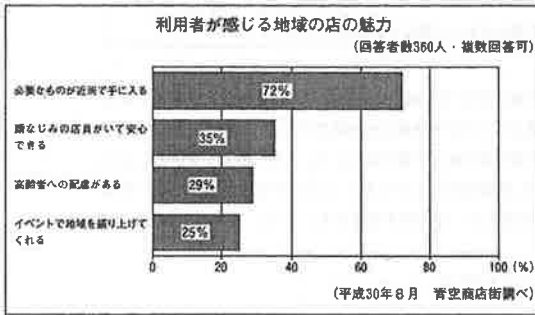
【求め方】 $9 \div 3$ で、1ポール分には3分間かかります。残り7ポール分なので、 $3 \times 7 = 21$ で、21分間かかります。

【答え】 21 (分間) 【番号】 1

- 全国中学生新聞を読んで考える問題や、「地域と私たちとのつながり」というテーマで意見文を書く問題など、日常生活と関連付けられた問題が出題された。また、意見文を読み返して文章を書き加えるという設定のもと、資料を見ていない人にも分かるように書く問題など、実際の学習場面や学校生活での活用を想定した問題が出題された。

【特徴的な問題例】

意見文を読み返して文章を書き加えるという設定のもと、資料を見ていない人にも分かるように書く問題



【広報紙の一部】

3

青木さんは、「地域と私たちとのつながり」というテーマで意見文を書いています。次は、青木さんが書いた「意見文の下書き」と、読み返したあと新たに取付して見つけた、青木さんが住んでいる地域の「広報紙の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【意見文の下書き】

最近、我が家ではインターネットを利用して買い物をする機会が増えていて、それは、店に行かなくても豊富な商品を比べる上、重い荷物を持たなくてよいかから、母も「便利になった」と喜んでいる。これは、インターネットでの買い物ならいいことだ。しかし、**①**我が家ではインターネットで済ませようと思ったら、地域の店はいつの間になくなってしまっているのだろうか。

地域の店はこれからは必要だ。なぜなら、地域の店には、インターネットでの買い物にはない**②**魅力があるからだ。私は昨年度、学校の近くの店で職場体験をした。その店では、インターネットでは出回らない、地元の特産品を販売していた。私が自宅で使っている番もその店で買ったもので、地元の木で作られている。池では買えないその品ならでは商品は、手に取って選ぶことができるのは、**③**地域の店の魅力だ。

我が家でも買い物の仕方を見直し、インターネットだけでなく地域の店も積極的に利用し、その店を通して地域の魅力をどんどん見付けていきたい。皆さんも毎日の暮らしに目を向けて、地域とのつながりについて改めて考えてみてはどうだろうか。

- 基本的な知識・技能を問う問題に加えて、与えられた表やグラフを用いて冷蔵庫の費用について考察する問題や、連続する3つの奇数の和の性質について式を使って説明する問題が出題された。また、「データの活用」の領域では、代表値の理解を問う問題や、与えられたヒストグラムの特徴を基に説明する問題などが出題された。

【特徴的な問題例】

代表値の理解を問う問題や、与えられたヒストグラムの特徴を基に説明する問題

8 図書委員会では、生徒の読書活動の状況を調べ、図書だよりにまとめようと考えています。そこで、図書委員の航平さんと桃子さんは、全校生徒270人を対象に、最近1か月間に読んだ本の冊数と、1日あたりの読書時間が何分であるかを回答するアンケートを実施しました。

アンケートのお願い	
・最近1か月間で読んだ本の冊数は何冊ですか。	(冊)
・1日あたりの読書時間は何分ですか。	(分)

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 二人は、実施したアンケートをもとに、最近1か月間に読んだ本の冊数について、下のような表にまとめました。下の表において、読んだ本の冊数の最頻値を求めなさい。

最近1か月間に読んだ本の冊数

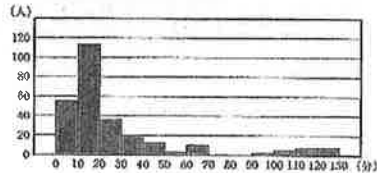
読んだ本の冊数(冊)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
人数(人)	13	114	71	30	11	7	4	4	3	4	6	270

(2) 二人は、実施したアンケートをもとに、1日あたりの読書時間について、次のような表とヒストグラムにまとめました。桃子さんが作ったヒストグラムでは、例えば、1日あたりの読書時間が30分以上40分未満だった生徒が20人いたことを表しています。

航平さんが作った表

	平均値	最大値	最小値
1日あたりの読書時間(分)	26.0	120	0

桃子さんが作ったヒストグラム



二人は、上の航平さんが作った表と桃子さんが作ったヒストグラムについて話し合っています。

航平さん「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだね。」
 桃子さん「でも、ヒストグラムを見ると26分ぐらいの生徒が多いとはいえないのではないかな。」

桃子さんが作ったヒストグラムを見ると、航平さんのように「1日あたりの読書時間の平均値が26.0分だから、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いといえそうだ」という考えは適切でないことがわかります。その理由を、桃子さんが作ったヒストグラムの特徴をもとに説明しなさい。

中教-15

中教-16

【正答例】

(1) 1

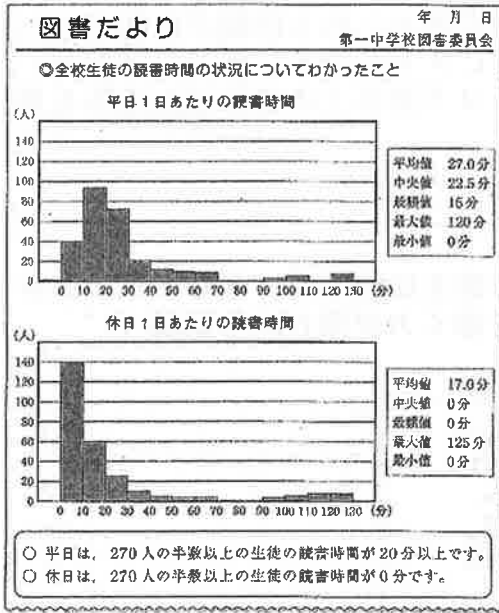
(2) 説明

(例) 1日あたりの読書時間である26分は山の頂上の位置にないで、1日に26分ぐらい読書をしている生徒が多いというのは適切ではない。

(問題の続き)

(3) 二人は、月曜日から金曜日までの平日と、土曜日と日曜日の休日では、1日あたりの読書時間に違いがあるのではないかと考えました。そこで、全校生徒を対象に、平日1日あたりの読書時間と休日1日あたりの読書時間を調べるアンケートを改めて実施し、270人の生徒が回答しました。そして、集計した結果をまとめ、次のような図書だよりの下書きを作成しています。

図書だよりの下書き



中数-17

前ページの図書だよりの下書きには、わかったこととして次のことが書かれています。

- 平日は、270人の半数以上の生徒の読書時間が20分以上です。
- 休日は、270人の半数以上の生徒の読書時間が0分です。

このことは、図書だよりの下書きにある平日1日あたりの読書時間と休日1日あたりの読書時間の、ある値に着目することでわかります。その値が、下のアからオまでの中にあります。それを1つ選びなさい。

- ア 平均値
- イ 中央値
- ウ 最頻値
- エ 最大値
- オ 最小値



中数-18

[正答例]

(3) イ

中学校英語

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」 21問

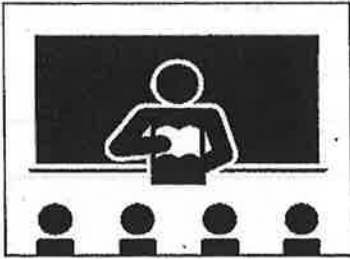
- 「聞くこと」「読むこと」においては、「留学生の英語によるメッセージ」を聞き取ったり、「社会的な話題に関する英文（食糧問題）」を読み取ったりして、自分の考えを書くなど、各技能を組み合わせて表現する力が求められる問題が出題された。また、「書くこと」においては、学校を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）の案を比較して、どちらがよいかを理由とともに、25語以上のまとまりのある英文を書く力が問われる問題などが出題された。

【特徴的な問題例】「書くこと」

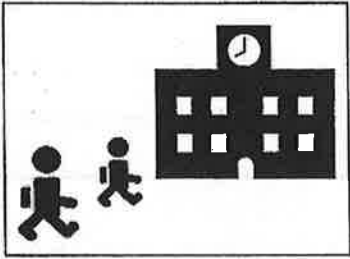
学校を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）の案を比較して、どちらがよいかを理由とともに、25語以上のまとまりのある英文を書く力が問われる問題

10 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。

【A】



【B】



※ 短縮形（I'm や don't など）は1語と数え、符号（, や ? など）は語数に含めません。
（例） No, I'm not. 【3語】

[正答例]

I think A is better. It shows a teacher and students in a classroom, so it looks like a school. I don't think B is good because it looks like a library.

中学校英語

「話すこと」 5問

○ 「話すこと」においては、「家族紹介」に係る2人のやりとりに沿った質問を場面や状況から判断し、即興的に表現する力を問う問題など、技能統合型の発信力を重視している新学習指導要領の趣旨を踏まえた問題が出題された。

【特徴的な問題例】

「家族紹介」に係る2人のやりとりに沿った質問を場面や状況から判断し、即興的に表現する力を問う問題

H31 中学校・英語 「話すこと」 スクリプト

※画面の説明や録音の練習等については省略

これから、「話すこと」の調査を始めます。問題は5問あります。問題音声が出る回数は、全て1回です。解答は、全て英語ではっきりと話してください。

大問1 これから画面上にイラストが表示されます。そのあと、イラストについての質問に英語で答えてください。問題は、(1)から(3)まであります。それでは始めます。



(1) When is her birthday?
(解答時間 6秒)



(2) What are they doing?
(解答時間 6秒)



(3) How does he come to school?
(解答時間 7秒)


大問2 あなたは、ユイコとアラン先生と話しています。まず、ユイコとアラン先生が、2人で話している場面から始まります。そのあと、あなたが尋ねられたら、2人のやり取りの内容を踏まえて、会話が続けていくように英語で応じてください。解答時間は20秒です。それでは始めます。

ユイコ あなた アラン先生



A: Look at this picture of my family.

A: This is my favorite picture.
Y: Nice! Who is she?
A: Oh, she is my mother, Nancy. And he is my brother, Tom. He can cook very well.
Y: I see. What kind of work does your mother do?
A: She is a teacher.



A: Do you have any other questions about them?
(解答時間 20秒)



1

大問3 あなたの学校で、海外のあるテレビ局が「世界の子どもたちの夢」というテーマで番組を収録しています。画面にある話してほしい内容の①、②について、英語で話してください。1分間、内容を考えたあと、30秒で話します。それでは、内容を考えましょう。(考える時間1分)

それでは、30秒で話してください。(解答時間30秒)

話してほしい内容
— 画面の中を見てください —

① 農業を営むおじいさん、おばあさん
② 畑で収穫した野菜を売るおじいさん



これで、調査は終わりです。

2

【正答例】

- ① (1) It's July second. (2) They are watching TV. (3) He comes to school by bus.
- ② What kind of food does your brother cook?
- ③ I want to be a farmer and grow delicious vegetables. My grandfather is a farmer, so I will help him and learn many things from him.

17

2 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の特徴

児童生徒質問紙 小学校：58問（前年比-4問）中学校：69問（前年比+10問）

家庭学習などの質問の一部が削除され、道徳、特別活動、ICTに関する質問が追加された。

中学校においては、3年に一度の英語の実施に伴い、英語学習に関する質問が追加された。また、部活動の取組についての質問が追加された。

【新たに追加された主な質問】

- ICT機器 小学校・・・(27) (28) 中学校・・・(30) (31)
 - ・5年までに（中学校1、2年生のときに）受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。
 - ・授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いませんか。
- 部活動について 中学校・・・(27) (28) (30)
 - ・学校の部活動に参加していますか。
 - ・普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしますか。
- 英語の学習について 中学校・・・(54)～(66)
 - ・スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で表現する活動が行われていたと思う。
 - ・聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思う。

学校質問紙 小学校：64問（前年比-20問）中学校：80問（前年比-1問）

質問項目が整理され、小学校の設問数が大きく減った。

【平成31年度質問項目】 [] 中学校

- 1 学校規模等
- 2 生徒指導等
- 3 学校運営に関する状況
- 4 教職員の資質能力の向上
- 5 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- 6 国語科の指導方法
- 7 算数科の指導方法
- [8] 英語科の指導方法
- 8 [9] ICTを活用した学習状況
- 9 [10] 特別支援教育
- 10 [11] 小学校教育と中学校教育の連携
- 11 [12] 家庭や地域との連携等
- 12 [13] 家庭学習
- 13 [14] 調査結果の活用

参考 【平成30年度質問項目】

- 1 学校規模
- 2 教員
- 3 児童生徒
- 4 教育課程
- 5 学習指導・生徒指導
- 6 調査結果の活用
- 7 算数科の指導方法
- 8 理科の指導方法
- 9 特別支援教育
- 10 地域人材・施設の活用
- 11 家庭学習
- 12 教員研修
- 13 教職員の取組

「2 生徒指導等」、「3 学校運営に関する状況」、「5 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」等に関する質問が新たに追加された。また、中学校においては、3年に一度の英語の実施に伴い、「8 英語科の指導方法」や「13 家庭学習」に関する質問が追加された。

【新たに追加された主な質問】

- 生徒指導等 小学校・・・(8) (10) 中学校・・・(8) (10)
 - ・熱意をもって勉強している。

 - 学校運営に関する状況 中学校・・・(22)
 - ・部活動のあり方について、保護者や地域と連携して見直しを進めている。

 - 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
小学校・・・(33) (34) (35) (36) 中学校・・・(34) (35) (36) (39)
 - ・総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている。
 - ・学級生活をよりよくするために、学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っている。
 - ・学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童〔生徒〕が意思決定できるような指導を行っている。
 - ・特別の教科道徳〔道徳の時間〕において、児童〔生徒〕自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている。
- ※〔 〕内は中学校の表記
- 英語科の指導方法 中学校・・・(50) ～ (62)
 - ・英語教育に関して、お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小学校とどの程度行いましたか。

 - 家庭学習 中学校 英語・・・(77) (78)
 - ・(英語の指導として) 家庭学習の課題(宿題)を与える。
 - ・(英語の指導として) 生徒に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除きます。)についての評価・指導を行う。

平成31年3月新規高等学校等卒業者の求人・求職・就職状況

平成31年3月末日現在（山口労働局調べより作成）

項目		性別	合計	男子	女子	前年同期比
A	求人数(人)	県内安定 所受理数	(5,804) 6,660			14.7%
B	就職希望者 数(人)	県内就職 希望者数	(2,468) 2,602	(1,476) 1,553	(992) 1,049	5.4%
		県外就職 希望者数	(598) 560	(449) 424	(149) 136	-6.4%
		合計	(3,066) 3,162	(1,925) 1,977	(1,141) 1,185	3.1%
C=A/B 求人倍率(倍)			(1.89) 2.11			0.22ポイント
D	就職内定者 数(人)	県内就職 者数	(2,451) 2,582	(1,469) 1,543	(982) 1,039	5.3%
		県外就職 者数	(597) 556	(449) 422	(148) 134	-6.9%
		合計	(3,048) 3,138	(1,918) 1,965	(1,130) 1,173	3.0%
E	未内定者数 (人) (B-D)	県内	(17) 20	(7) 10	(10) 10	3人
		県外	(1) 4	(0) 2	(1) 2	3人
		合計	(18) 24	(7) 12	(11) 12	6人
F=D/B 就職内定率 (%)		県内就職	(99.3) 99.2	(99.5) 99.4	(99.0) 99.0	-0.1ポイント
		県外就職	(99.8) 99.3	(100.0) 99.5	(99.3) 98.5	-0.5ポイント
		合計	(99.4) 99.2	(99.6) 99.4	(99.0) 99.0	-0.2ポイント
G	県内・県外 就職内定 比率(%)	県内就職	(80.4) 82.3	(76.6) 78.5	(86.9) 88.6	1.9ポイント
		県外就職	(19.6) 17.7	(23.4) 21.5	(13.1) 11.4	-1.9ポイント
(注) 1. ()内は昨年同期の数値である。 2. A欄：求人数は、山口県内の公共職業安定所で受理した求人数である。 3. B欄：就職希望者数は、学校又は公共職業安定所の紹介を希望する者の数である。 4. C欄：求人倍率は、Aの求人数/Bの就職希望者数(合計)である。 5. G欄：県内・県外就職内定比率は、D(県内就職者数または県外就職者数)/Dの就職内定者数(合計)である。						

2019年度やまぐちの活力を支える高校生就職支援事業

(1) 県内就職ガイダンス等充実事業

- 地域産業魅力発見セミナー
 地元の企業に就職した卒業生等が、仕事のやりがいなどについて、生徒一人ひとりに語りかける座談会や地域・地域産業の魅力を伝えるセミナー等を各学校において実施
 対 象：県立高等学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校に在籍する高校1・2年生及び保護者
- 地域産業就職ガイダンス
 就職に向けた意識の醸成を図るためのガイダンスを各学校において講師を招いて実施
 対 象：公立高等学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校、私立高等学校に在籍する高校3年生及び保護者

(2) 県内就職サポーター等配置事業

- 就職サポーター [公立高校19人、私立高校5人]
 生徒の希望を踏まえた求人開拓、情報提供、マッチング個別面談を実施 ※派遣校制度により、すべての学校を支援する。
 - チーフ就職サポーター [3人：県東部、県中部、県西部]
 求人情報等を集約し、各地域での共有化 ※就職サポーターの業務含む。
 - 県内就職促進統括マネージャー [1人：県中部]
 県内企業情報の分析、連携機関との窓口一元化、広域マッチング
- 対 象：公立高等学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校、私立高等学校

(3) 県内企業就職セミナー事業 ※ 下線部を拡充

- 県内企業見学セミナー
 県内企業の現場見学を行い、企業で働く人からのセミナーを実施
 対 象：県立高等学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校に在籍する高校1・2年生及び保護者
- 県内企業就職説明会
 高校1・2年生及び就職希望の高校3年生並びに保護者が、企業の採用担当等との直接面談を実施
 対 象：公立高等学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校、私立高等学校
 開 催 日：2019年6月14日(金)(下松)、6月17日(月)(山口)、6月19日(水)(下関)
 ※ 10月上旬(未内定者に対する説明会)

県内企業見学セミナーと県内企業就職説明会は、同日開催が可能

【同日開催する場合の実施例】
 高校1・2年生及び保護者が、バスを利用し、午前中は「県内企業見学セミナー」により企業見学を行い、午後は「県内企業就職説明会」に参加し、県内事業所のブースを回り、県内企業についての情報を収集する。

(4) 県内企業訪問推進事業

求人開拓、応募前職場見学及び職場定着指導等のため、教員等による企業訪問を実施
 対 象：県立高等学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校、私立高等学校
 ※ 県立高森みどり中学校は職場定着指導のみ可

(5) 県内就職促進協議会

進路指導担当者等や企業の採用担当者等が教育内容や業務内容等についての情報交換会

対 象：公立高等学校、県立中等教育学校、県立特別支援学校、私立高等学校	
開催予定日・会場：	
I 期	岩国・柳井地区 6月3日(月)岩国国際観光ホテル
	周南地区 5月21日(火)ほしらんどくだまつ
	山口・防府地区 5月15日(水)県庁職員ホール
	宇部・山陽小野田地区 5月23日(木)ココランド山口・宇部
	下関地区 5月30日(木)海峡メッセ下関
II 期	萩・長門地区 5月28日(火)萩グランドホテル天空
	県東部 6月12日(水)ほしらんどくだまつ
	県中部 6月10日(月)県庁職員ホール
	県西部 6月6日(木)海峡メッセ下関
※ II期は、I期で参加できなかった企業が参加	

